

聖書的コーチング

～心の時代の福音～

2023/3/19

「コーチング」の歴史

- スポーツの分野でよく聞く言葉
 - プロスポーツ選手には専属のコーチがいる
- 「コーチ」とは「馬車」を意味する言葉
 - 「大切な人をその人が望むところまで送り届ける」ところから「**人の目標達成を支援する**」という意味
- 経営（マネージメント）の領域から始まる
 - 1950年代マイルズ・メイス氏が提唱
- 1980年代からアメリカで大流行！
 - 日本でも2000年以降ビジネスの世界で流行
 - 現在では教育・人材開発・医療など様々な分野

「コーチング」とは？

- 定義（日本コーチ連盟）

- 「コーチングとは、本人特有の感情や思考のはたらきを行動の力に変えることで目標達成や自己実現を促す、**コミュニケーション技術**です。」
- その人の中から答えを引き出す

- 他のスキルとの違い

- カウンセリング：心の不調や課題を克服・治療する
- コンサルティング：解決策を提示する
- メンタリング：先輩として広く助言する

この世で「働く」？

- 「労働」は神の本質である

- 神は6日間「働いて」この世界を造られた

- 人は「働く」ために創造された

- 「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、**人がそこを耕し、守る**ようにされた。」創2:15

- 墮落によって「労働」は呪われた

- 「お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。…お前は顔に汗を流してパンを得る／土に返るときまで。」3:17-

複雑化された「労働」

- 産業革命(18～19世紀)以前はほとんどの人たちが第1次産業に従事していた

- 江戸時代: 士7% 農85% 工商5%

- 現在: 第1次産業3% 2次23% 3次74%

- 変化した労働の目的

- 男女の労働差が生まれた

- 糧を得ることから金を得ることへ

- 富が生み出したいびつな社会

- 非聖書的な世界で働く困難さ

- 「隠れキリシタン」か「孤立」か？

直接糧を得る
労働ではなくな
った！

問い続けなければならないこと

- A) 私が生きている社会・文化や働いている職種には、どんなストーリーがあるか。その話の中でヒーローは誰か、悪役は誰か
- B) 意義・道徳観・起源・運命について考えるとき、その根底にあるものは何か
- C) 偶像は？希望は？恐れは？
- D) 自分の仕事の中で、この筋書きがどんなふう
に語られているか。その話の中で、仕事は
どんな役割を果たしているか

ティモシー・ケラー「この世界で働くということ」

- E) 社会で一般的とされる世界観のどの部分が福音と調和しているか。自分が同意し、同じ立場をとれるのはどの部分か
- F) 社会で一般的な世界観とどの部分がキリストなしに解決できないか
- G) 仕事をするとき、単に立派な仕事をするというだけではなく、クリスチャンの独自性を打ち出せるか
- H) ①個人に仕える②社会全体に仕える③自分の職業分野で仕える④能力や卓越した力を示すモデルとなる⑤キリストを証しする、の5点において、仕事の中でどんな機会があるか

聖書的コーチング

① 聖霊の導きを聞き分ける

- ・自分自身に対してのみならず、他の人にも導きが与えられていることを忘れない

② 祈りを中心とする

- ・イエス様がそうされたように、父なる神の声に耳を傾ける時間をしっかり取る

③ 交わりを大切にする

- ・教会（クリスチャンの交わり）は独りよがりを防ぐ

④ イエス様の方法を参考にする

- ・弟子たちに問いかけ考えさせられた

聖書的コーチング

⑤ 互いに尊重し合い、補い合う

- それぞれに与えられている「召し」を大切にする

⑥ 「成熟」に向かう道を選ぶ

- 「すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように」コロサイ1:28

⑦ 神と人に説明できる

- 互いに理解を深め合いながら前進する

⑧ 幹であるキリストに繋がり続ける

- 「あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。」ヨハネ福音書15:4

一般と聖書的コーチングの違い

一 般	聖 書
自己実現を目指す (自分のために 自分が変わる)	神実現を目指す (神と人のために 自分が変わる)
人間のコーチ	聖霊と人のコーチ
コーチとの会話	祈りによる会話と 聖書の言葉
基本個人	教会全体

最後に

- 成熟できない人たち

- 自分にはコーチングは必要ない(過信)
- 自分はコーチングを受ける年齢を過ぎている

- 成功するコーチングの前提

- 問いかける謙虚さと変わろうとする柔軟性

- キリストの弟子であることを忘れない

- 「わたしは**柔和で謙遜な者**だから、**わたしの軛を負い、わたしに学びなさい**。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」マタイ11:29-30

共に目指す成熟

「ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長（成熟）するのです。」

エフェソ4章13節